

図書館だより 5月号

1-3 濱田

1-6 岡

ゴールデンタイムの消費期限 斜線堂 有紀



「才能を失っても、生きていいですか？」

自分の消費期限は、もう切れているのか――

小学生でデビューし、天才の名をほしいままにしていた小説家、綴喜文彰は、ある事件をきっかけに新作を発表できなくなっていた。そんななか迎えた高校3年生の春、「レミントン・プロジェクト」に招待される。「まだ1傑作を書けるようになる」と言われ参加するが、それは人工知能レミントンとのセッションを通じて元天才達のリサイクル計画だった。

AIと才能とアイデンティティをめぐる、すがすがしい青春小説。

- ▶ 「私が大好きな小説家を殺すまで」 斜線堂 有紀
こちらも天才にまつわる物語。ぜひ一緒にどうぞ。

これを期に、今まで
読んでジーンと納まらなかった本にも
挑戦しませんか？
ぜひ、溺れるほど本を
愛してください！

今年度の文化委員会のスローガンは
「本に溺れてブックブック」です。

以下に文化委員のおすすめ本を
紹介します。

拝み屋怪談 来たるべき災禍

郷内 心瞳

「わたしは海になりたいの。」そう言った彼女は誰だったのか。
暗い現実と、希望に満ち溢れた虚構の“現実”。
相反する2つの青春時代の記憶。
そして彼女は甘美な日々への代償を支払わねば現れる。
彼女の正体は一体何なのか、この悪夢のような現実には、終わりはあるのか。
「境界線の悪意」を初めとして背すいの凍る短編集。
現役の「拝み屋」がおくる恐怖の実体馬喰、「拝み屋怪談」シリーズ
第3段
これからの暑い夏、極上の恐怖体験で涼みませんか。